

# ソロモン諸島で咲かせたソフトボールの「花」、普及の最前線

文・写真 井上 栄 (青年海外協力協会)

第7回

## ソロモン流のリーグ戦開幕



いのうえ・さかえ / 1980年12月11日生まれ。愛知県出身。小学校からソフトボールを始め、大学までプレー。卒業後は愛知県公立中学校に体育教諭として勤務。2007年に退職し、青年海外協力隊に参加してジンバブエ共和国(07年6月~08年3月)、ソロモン諸島(08年8月~09年12月及び10年4月~11年3月)に赴任。帰国後は、星橋名古屋中での勤務を経て、公社・青年海外協力協会に所属して駒ヶ根青年海外協力隊訓練所に勤務。

**前**号で紹介した「OTUWANAゲーム」は、大いに盛り上がり、私にとつての初めての大会、ソロモン人にとつては何年ぶりかも分からない大会は大成功を収めました。

これを機に選手たちのリーグ戦復活への気持ちは大きなものになりました。選手たちからは「ソフトボール全盛期には同時に4面で試合をしていました」と誇りに聞かされていました。選手たちにとつてリーグ戦もまたOTUWANAゲームと同じくらい特別なものです。2008年8月にソロモン諸島に赴任した時点では、私の任期は10カ月間でしたが、半年間の任期延長が認められていました。自分に望まれることは何でもしようと思つていたときに発信された選手たちからの「リーグ戦を開催したい」という希望、やるしかないと思つきました。

しかし、このころは巡回先の小中学校で1週間に計17時間の体育授業、ソロモンへのボランティア派遣30周年の記念式典の

ため配属先の学生を巻き込んだのソラン節の練習などに忙しい、本来の要請内容にはない地域ソフトボールリーグの準備・調整を平日の昼中に行うことはできません。そこでOTUWANAゲームのとき以上に選手たちとともに活動することになりました。

まずは、いつからリーグ戦を始めるかを決めました。開幕はOTUWANAゲームから1ヵ月後の5月上旬となり、そこからとにかくリーグ戦開催を周知するべく新聞社やラジオ局などにお願ひしてニュースを流してもらいました。毎週日曜日Hの練習ももちろん継続し、一人でも多くの人に伝えてもらうようにしました。また、練習の前後や合間にリーグ戦に向けての話し合いを行いました。その中で決まったことは、「総当たりを2巡行うこと」「男女別のリーグ戦にすること」です。

そして、ソフトボール連盟の方とも一緒に相談する機会があり、「ユニフォームパレード」をし



毎週試合が行われたため、一面草むらだったのが、バッターボックスの部分には土が露わになった

ソロモン諸島 Solomon Islands  
 首都: ホニアラ (ガダルカナル島)  
 人口: 約53万人  
 言語: 英語、ビシン語  
 面積: 2万8,900km<sup>2</sup> (岩手県の約2倍)  
 大小約100の島々からなる英連邦の1国で、4000もの集落が点在している。地理的にオーストラリアとの関係が深く、日本ともいろいろな面で友好を結んでいる。国民の大半が農業・漁業に従事しているが、近年は天然資源の開発で注目を浴びる。

よう」という案が上がり、ユニフォームを着るチームが増えるというの狙い。ソロモンにある2つのスポーツ用品店で野球やソフトボールのユニフォームが売られているのを見たことがなかった。連盟からの提案には半信半疑でしたが、興味深かったのでユニフォームパレードをすることにしました。

実際のパレードは、日本でいう開会式のようなものですが(笑)、このパレードをすることに決まったのは、リーグ戦開幕10日前。すぐに新聞社に連絡し、最後の練習では選手たちに直接伝えました。また、リーグ戦を始めるにあたってグラウン

ドづくりも変更しました。これまでの試合では砂浜の砂を使っていたが、あまりにも砂が重く、準備の負担が大き過ぎたためです。いろいろ調べていると陸上競技の際には廃油でラインを引いていることが分かりました。廃油は、使用目的がスポーツの場合、車の整備工場でも料でもらえたのです。

参加チームは結局当日まで何チーム来るか不明でしたが、集まったチームで始めると腹をくくり当日を迎えました。大会当日、ユニフォームパレード開始時刻の30分前にグラウンドに到着すると、すでに何人かの姿があります。そして、続々と集まってくる選手たちは、

なんとユニフォームを着ています。男子は6チーム中2チーム、女子は2チーム中2チームがユニフォーム着用でした。男女合わせて8チームものエントリーがあったこと、その半分がユニフォームをそろえたことに本当に驚きました。そして、何より驚きは、イベントの開始が2時間以上遅れるのが当たり前前のソロモンで時間とおりに始まったこと(笑)。

栄はある開幕戦は、そのH1番早くグラウンドについた2チームに試合をもらいました。また、その後の試合は、男子リーグは、1日に3試合を行うことになりました。グラウンドの関係からリーグ戦は毎週日曜日

に行われます。日曜日は、キリスト教徒のソロモン人が教会へ行く日です。そのためほかのスポーツで日曜日に試合をする団体はありません。ソフトボール選手は、午前中に教会へ行き、その後グラウンドへ集まってきます。1日3試合を行うためには、昼過ぎには試合を始めなくては行けません。そんなに無理しなくてもいいのと思ったのですが、久しぶりにソフトボールをできる選手たちは、「毎週試合がしたい」と言います。

しかし、ほかに理由がありました。「飛び飛びで試合がある」といつ試合があるか忘れてしまう「毎週試合があればわざわざ連絡しなくてもいい。いかにソロモン人らしい理由に納得し、かなり無理をした日程でリーグ戦を続行しました。

民族意識の強いソロモンは、同じ島の出身



ユニフォームをそろえた男子チーム(写真上)と女子チーム(下)。「ユニフォーム」といっても上はTシャツで色を統一させたものだが、その「統一」が大事だった



全8チームそろっての「パレード」という名の開会式。ここをスタートにソロモンでのリーグ戦が始まった

**Information 皆さんのお力をぜひ!**

10月上旬から募集開始の「世界笑顔」プログラムは、途上国で活動するボランティアにとつても現地の人々にとつても貴重な制度である。途上国で購入するには高価なものや手に入りづらいものをボランティアの配属先以外でも彼らを通じて応募することができる。

また、日本の提供者へは、用具の提供が終わると報告書と写真がボランティアから届けられる。募集品は、ソフトボール、グラブ、バットなど競技用品に限らず、楽器、算数セット、裁縫用具などの教材から日本紹介のグッズ、車椅子など多岐にわたる。また、10月1日からはボランティアの秋募集が始まる。

HP / <http://www.jica.go.jp/volunteer>